

総合防災訓練を実施！

8月31日に糸崎の埋め立て地で、県や市、県警、自衛隊、尾道海上保安部など108機関、約1,700人が参加して、総合防災訓練を実施しました。

愛媛県東予地方を震源とするマグニチュード8の地震により、三原市内でも建物の倒壊や火災が発生し、また台風の接近に伴う集中豪雨のために土砂崩れが起きるなどの同時多発災害を想定した訓練となりました。



▲負傷者をヘリコプターで搬送する訓練

倒壊家屋の救助訓練では、バケツリレーで初期消火を行い、負傷者を救出しました。土砂災害に巻き込まれて車内に閉じ込められた人を、消防隊員らが特殊な機械を使って屋根を切断するなどして、助け出す訓練もありました。

今回の訓練には市内の自主防災組織も参加し、関係機関との連携強化を図るとともに、さらに防災意識を高めました。

これからもお元気で！長寿を祝福

9月18日・19日、市内の100歳以上の高齢者のうち、三原・本郷・久井・大和地域の最高齢者を五藤市長がそれぞれ訪問し、笑顔で長寿を祝いました。

大和町の男性で最高齢の新田勝太郎さんは、「人生で最高です。家族の支えがあって健康でいることができます」、大和町の女性で最高齢の上田カズノさんは「ありがとうございます。普段は庭の草取りもしています」と元気に語りました。

今年度、100歳を迎える人は24人で、100歳以上の人は74人、最高齢は108歳です。

敬老の日を中心に、9月には150会場で、町内会や女性会、社会福祉施設などの主催により、敬老事業や記念品が贈られ、今月も5会場で行われます。



▲「健康が一番です」と五藤市長から祝福される新田勝太郎さん(左)と上田カズノさん(右)



協働のまちづくりシンポジウムを開催



▲まちづくりのキーワードは対話と信頼です！

地域課題や市民ニーズの多様化を背景に、今後のまちづくりの方向性を探るため、9月8日にリージョンプラザ文化ホールで、約350人が参加して「協働のまちづくりシンポジウム」が開催されました。

基調講演では、松下啓一・相模女子大学客員教授が協働のまちづくりを野球にたとえ、「人口減少や地方分権の進展などの社会情勢の変化のなか、自治体が生き残るためには、構成員である市民・議員・市役所のみならず、それぞれのポジションでがんばる協働が必要」と話しました。

続いてシンポジウムでは、パネリストとして、住民自治組織、NPO法人、商工会議所、ボランティアセンターを代表する4人と五藤市長が参加し、日ごろの活動にふれながら、協働のあり方について意見発表を行いました。

「行政依存の風土を対話の風土に転換していくことが必要」、「活動範囲を広げるために他団体との交流と情報交換を図りたい」、「わがまちを愛し、まちの歴史や文化を知り、守ることも協働のまちづくりにつながる」など、それぞれの活動を通してまちづくりにかける思いを交換しました。

今後、今回のシンポジウムや市民アンケートの結果、地域での意見交換会などを参考にし、まちづくり指針策定懇話会を重ね、よりよいまちづくりのために市民と行政が知恵を出し合いながら、協働のルールを盛り込んだ「市民協働のまちづくり指針」を策定する予定です。